

【花粉症の最新治療】

今回は花粉症に対しての最新の治療薬を2つ紹介します。

『経皮吸収型アレルギー治療薬』

わかりやすく言えば「貼り薬」で、現在花粉症の飲み薬として広く用いられている「抗ヒスタミン薬」を皮膚から吸収させる薬剤です。貼る部位は腕や体幹部なので、目立たずに使用することができます。

貼り薬は一日中ゆっくりと吸収されるので効果が安定しやすく、また血中濃度が上がりすぎないため眠気が出にくいというメリットがあります。夜間寝ている間も吸収されるため、就寝中や朝方の症状が強い方にもおすすめできます。デメリットとして皮膚が弱くテープかぶれを起こしやすい方にはおすすめできません。

注) 15歳以上が対象です

『抗IgE抗体』

アレルゲンが体内に入ると「IgE」というアレルゲンに対しての抗体が作られ、肥満細胞という細胞の表面に並びます。このIgEにアレルゲンが付着する事で肥満細胞から「ヒスタミン」という物質が大量に放出され、神経や分泌腺、血管などにあるヒスタミン受容体が刺激される事で、くしゃみや鼻汁、鼻づまりといったアレルギー症状が引き起こされます。

「抗IgE抗体」はこの過程で登場するIgEに対しての抗体であり、この薬剤をアレルギーの時期に2~4週間おきに皮下に注射する事でアレルギーが引き起こされる過程をブロックする事ができます。

喘息やじんましんに対して治療適応がある薬剤でしたが、2020年よりスギ花粉症に対しても適応が拡大されました。

効果が非常に高い治療ですが、薬剤の価格も非常に高いのが難点です。体重と血中のIgE値に応じて投与量と投与間隔が決定されますが、1か月あたり最低で4500円、最高で7万円(3割負担)ととても高額になる可能性があります。

治療適応については条件が厳しく設定されており、既存の治療で十分な効果が得られないような重症・最重症の花分症の方に限られます。

注) 12歳以上が対象です